

## タイトル

『汐製菓会社の新作 3 ビスケット4』

## 登場人物

- ・ 汐（しお）…汐製菓会社社長、30代。  
「面白きことも無き世を面白く」がモットー。アイデアマンで、常に大胆な商品企画を発案する。無邪気でエネルギー溢るユだが、思いつきで突っ走ることも多い。
- ・ 塩田（しおだ）…汐の秘書、30代。真面目でしっかり者。汐の斬新なアイデアに毎回振り回されるが、内心では社長のクリエイティブな一面を尊敬している。  
実は大の甘党で、お菓子作りにも興味があるが、控えめな性格のため、なかなか自分の意見を強く言えない。

## シーン①：社長室でのアイデア出し（15分）

### 場面設定

汐製菓の社長室。大きな窓から見える都会の景色を背景に、汐は革張りのデスクチェアに座り、足を机の上に投げ出している。塩田はデスクの横に立ち、プレゼン資料を整えながら話している。

塩田：「次回の新作企画についてですが、今まで通り『プレミアムチョコ』路線で進める予定です。これなら多くの消費者層にも受け入れられますし、無難な選択かと…。」

汐：（急に身を乗り出して）「無難なんてつまらない！お菓子作りは冒険だ！人々の心を揺さぶるものを作らないとダメだろう？ティラミス味のビスケット、どうだ？」

（塩田、一瞬呆然とするもすぐに冷静さを取り戻す）

塩田：「テイラミス味…ビスケットにですか？  
ちよつと予想外すぎて…大丈夫なんでしょう  
か？テイラミスって、ふわふわのクリームとか、  
エスプレッソの苦みとかが特徴で、ビスケットに  
するには…その、少し無理があるかと…」

汐：（手を振って）「そんなことはない！むしろ  
その複雑な味わいが面白いんじゃないか。甘  
さと苦み、クリーミーさの融合だ！想像して  
みる、口に入れた瞬間に味が爆発するビスケ  
ットだ！」

塩田：（困惑しつつも、内心でワクワクしてい  
る自分に気づく）「でも、それを実際に商品  
化するのには難しそうです。試作には相当な時  
間と労力がかかりますし、消費者の反応も  
未知数ですし…」

汐：「未知数だからこそやる価値があるんだ！君も甘党だろうか？一緒に冒険しようじゃないか！」

塩田：（顔を赤らめながら）「そ、それは…まあ、お菓子好きですが、個人的には普通のチョコビスケットの方が…」

汐：「普通なんてつまらないだろうか？」（にっこり笑ってウインク）

---

## シーン2：開発室での試作（20分）

### 場面設定

開発室。汐と塩田は開発担当者と共に、新しい試作ビスケットを試食する。試作品がテーブルに並べられ、ピーカーや粉類が散らばっている。

開発担当者：「こちらが第一弾の試作品です。エスプレッソ風味をしっかりと出してみました。」

(汐、蒸気揚々とビスケットを手に取り、一口かじる。その瞬間、顔が苦悶に変わる)

汐：「うおっ！ 痛い！ コーヒー豆そのものじゃないか！」

塩田：(恐る恐る同じビスケットをかじる)

「……口の中がまるで喫茶店です。ちょっとこれ、飲み物がないときついです……。」

開発担当者：「エスプレッソの風味を強調しすぎたかもしれません。次はこちらを試してみてください。」

(別のビスケットがテーブルに置かれる。汐)

塩田、警戒しながらそれを食シム

汐：「ん？ こっちは……甘すぎるな。口の中が砂糖でいっぱいだ。」

塩田：「確かに…でも、エスプレッソが効きすぎた最初のやつよりは、マシかも…」

開発担当者：「すみません、マスカルポーネの風味を強調しすぎてしまったようです。」

(汐、立ち上がりながら部屋の中を歩き回る)

汐：「テイラミスって何だったっけ…甘いのに苦くて、ふんわりしてて、しっとりしてる。そうだ、バランスが重要なんだ！コーヒーの苦みとクリームの甘さ、その絶妙なバランスをどうやってビスケットに閉じ込めるかが鍵だ！」

塩田：「でも、どうやって…？そんな繊細なバランスを一枚のビスケットに詰め込むなんて…」

汐：「それをやるのが俺たちだろう！もう一回試作だ！」

## シーン③：試作品完成と発表会 準備（15分）

### 場面設定

再び開発室。いくつもの試作を経て、ついに「ビスケット♪ ティラミス味」の最終形が完成する。汐は満足そうに試作品を手に取り、食べる。

汐：「うん、これだ！甘さと苦み、そしてふんわりしたクリーム感…完璧だ！」

塩田：（食べながら感動して）「…本当に、ティラミスの味がします！どうやってこんなにうまく仕上げたんですか？」

開発担当者：「最終的には、マスカルポーネチーズの濃度を少し下げ、エスプレッソ風味をバランスよく配合することで、この味わいにたどり着きました。」

（汐、腕を組みながら満足げにうなずく）

汐：「よし、これで勝負だ！大々的に発表会を開くぞ！」

（発表会の準備が進む中、塩田はメディア対応の資料を作成しながら、ドキドキしている）

塩田：「本当にこのティラミスビスケットが世間に受け入れられるのか…うまくいけばいいけど。」

汐：「大丈夫だ！俺たちが作ったものが面白くないわけがない！さあ、発表会の準備だ！」

---

## シーン4：発表会当日（30分）

### 場面設定

大きな発表会会場。国内外から多くのジャーナリストやバイヤー、SNSインフルエンサーたちが集まり、会場はにぎわっている。ティラミ



ビスケットの巨大なポスターがステージに飾られている。

司会者：「皆様、お待たせしました！汐製菓の最新作、『ビスケット×ティラミス味』の発表です！」

（汐が堂々とステージに登場し、ティラミスビスケットを手にする）

汐：「みんな、これが我々の自信作だ！ティラミスの風味を一枚のビスケットに詰め込んだ、今までにない商品だ！」

（観客たちがざわつきながら、次々と試食用ビスケットを受け取る）

塩田：（控え室で祈るようにしながら）「どうかうまくいきますように…」

**試食のリアクション（国内編）**

ビジネスマンA：「一口食べて驚いた表情を浮かべる」「おっ、なんだこれ！？甘さと苦さが交互に来る…意外といけるな。」

女性インフルエンサー：「インスタ映えしそうなデザインだけど、味も面白い！最初は甘いけど、後からコーヒーの苦みが追いかけてくる。」

これはSNSでバズる予感！」

（会場内で試食したお客さんたちの反応が広がり、SNSには早くも#ティラミスグルメケットがトレンド入りする）

### 試食のリアクション（海外編）

（アメリカ人バイヤーが一口食べて大げさなりまくションを取る）

アメリカ人バイヤー：「Wow! It's like having dessert and coffee in one bite!」（「わーい！デザートとコーヒーが一緒になった一口だ！」）

イタリア人シェフ：（慎重に味わいながら）

「Hmm… This isn't traditional tiramisu,

but it's quite an interesting twist. I like

it!」（「これは伝統的なティラミスじゃないが、

面白いアレンジだな。気に入ったよ！」）

---

## シーン5：結末（10分）

### 場面設定

発表会から数週間後。汐製菓の社内はティラミスビスケットの売り切れに関する電話やメールで大忙し。会議室では塩田が急ぎながら注文対応をしている。

塩田：「社長！ティラミスビスケットが世界中で売り切れ続出です！追加注文が殺到しています！」

汐…(ニヤリと笑いながら)「だから言っただろ  
う？世界を驚かせるビスケットを作ったんだ。  
これが我々の勝利だ！」

(塩田、深いため息をつきつつも笑顔を浮かべ  
る)

塩田…「まさか本当にこんなに大ヒットするな  
んて…社長の言う通り、面白さが一番大事  
なんですネ。」

汐…「その通り！お菓子はただ食べるものじゃ  
ない、人々に笑顔と驚きを与えるものだ。次  
はもっと面白い商品を作るぞ！」

塩田…「まさか…次の新作はもう考えている  
んですか？」

汐…「もちろんさ！次は……ピザ味のビスケッ  
トだ！！」

塩田…「えええ！？(頭を抱える)」

## 結末

ティラミスビスケットは、国内外で大ヒット。汐の大胆な発想は賛否を巻き起こしつつも、多くの人々の心を掴み、汐製菓の名声は一層高まる。次の新作に向けて、二人は再び動き出す――。

エンドクレジット：『汐製菓の冒険はまだ続く』

おしまい